

二〇一五年度 一般二月入学試験

国 語

〔注 意 事 項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は25ページ、解答用紙はマーク・シート1枚です。監督者の指示に従って確認しなさい。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
4. マークは、マーク・シートに記載してある「記入上の注意」をよく読んだうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、マーク・シートの所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があつてから、マーク・シートの左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

国

語

(60分 100点 (解答番号

1

45

)

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

機械いじりが三度の飯より好きだというわりに、青島さんは不器用である。作業はむかしから評判になるくらいのもろくて、さほど大きくないベルトコンベヤーの修理とメンテナンスにまるまる二日かけることもめずらしくなかった。そのかわり、青島さんの修理と保守点検は、どんな機械でも内部は新品同様の状態にもどしつ、それまで使っていた人の癖はうまく残すという誰にも真似<sup>まね</sup>できないものだった。機械が自分でたくわえてきた使用者の癖の痕跡を消さずに、部品だけを生き返らせてやるのだ。野球のグラブの調整とおなじだよ、と青島さんはこともなげに言う。時間をかければいいってわけじゃないけどさ、自分にあつたペースつてもがあるだろ、機械にも<sup>(1)</sup>個体差があつて、それぞれに見合うペースがあるんだよ。

青島さんの機械は、つくった当人でなければなにもわからないブラックボックスみたいなので、素人目にもスマートな姿とはいえなかった。保守部品もぜんぶ自前だから、べつの業者に修理を依頼することもできない。信じられない話だが、<sup>(2)</sup>彼は他人が描いた設計図は読めるのに、自分ではまったく描くことができないのだった。字がうまくないという事情もたしかにあつた。もう少し習字の勉強でもしといてくれたらな、と田辺さんが<sup>(3)</sup>茶化すと、おれはだめだよ、ひとさまに読んでもらえる字なんて自分の名前くらいなもの、<sup>(4)</sup>親父<sup>おやじ</sup>がむかしおれの字を見てさ、ミミズが<sup>(3)</sup>這<sup>は</sup>つてるみたいだつてよく言つたよ、こんなに字が汚いんだからおまえは医者になるべきだつてね、と煙に巻いたものだ。設計図が描けないのは、手探りで現物をかたちにしてからそれを展開図に戻すという、ふつうと逆の順序で仕事をするからで、青島さんは、頭のなかにあるイメージを外に出してしまわないかぎり、作業を進めることができないのである。

なべちゃん、修理は部品の取り替えじゃないよ、というのが青島さんの口癖だった。おれのこしらえた機械の調子が悪くなつ

たら、外から手を触れただけでどこがいわれているか、たいていわかるんだ、触ってわかるのは、すべて分解して組み立てられるような、単純な構造を基本にしてるからだよ、ブカッコウな機械だつて言われるけど、中身は機械自身がいちばん動きやすいようにできてるんだ。大型でも小型でも、分解して部品の汚れを油できちんと落としてやれば、いつまでも使えるっていうのが、機械屋のやるべきことだよ。

(6) たしかにそのとおりだ、と田辺さんも思う。故障したとなると、あやしげな個所を特定せずにその周辺をこっそり取り除き、あたらしいユニットをはめ込むだけで果たして修理と言えるのか。局所的に直すかわりに、まわりをぜんぶ取り除くなんて、胃の一部だけ悪いのに、まるごと摘出せよと迫るようなものだ。(7) ビョウソウの一点だけを治療して、周辺の臓器を傷つけず、身体からだ雑把から徐々に問題の箇所へ、つまりピンポイントでよくないところへ手をのばしていく根気が欲しい。分解して組み立てられるくらいの、単純だがユウズウのきく構造が、機械にも、社会にも、人間関係にも欲しい、と田辺さんはいつも考えていた。息子や娘とも、もちろん妻ともそんなふうにつながっていられば、どんなに健全か。単純な構造こそ、修理を確実に、言葉を確実にしてくれるのだ。

青ちゃんは、その点、ほんとうに徹底してるな、と田辺さんはサンタンする。(9) 自分の「作品」を受け入れてくれた顧客にたいして、最後の最後までその面倒を見ることが、仕事の大前提になっているのだ。黒々と豊かになびいていた髪が真っ白になったいまでも、日曜祝祭日を問わず、青島さんは頼まれれば時間が許すかぎりやってきて、<sup>(10)</sup> 労を惜しまず機械と向きあう。というより、青島さんの仕事の進め方では、人のいない休日か、営業時間外にやるしかないのだった。来週あたりなら、来てくれるかもしれない。

「そうだな、いちおう、診てもらおうか」歯の掃除を終えた田辺さんは、指先に持つものをマッチ棒からハイライトに取り替えて言った。

「そうよ、電話してみなさいよ。ついでに糊つけ機のモーターも調整してもらいたいし。途中で紙がまるまって詰まっちゃうの

よ。遅くなったら、夜はうちで食事してればいいって、青ちゃんにそう言っておいて」

箱に貼りつける化粧紙や商品名と番号を記したレットルの糊づけ機は、創業以来ずっと働きつづけている田辺さんの大事な仲間だ。糊を水で溶いて薄めた液体を、細い金属のローラーが並んだ小さなコンベヤーが巻き取り、濡れたローラーのうえを最大でも十五センチ四方の、商品名をスタンプで押し込んだ小さな紙が流れて、いちめんに糊が塗られてから作業員の手もとに出てくる。モーター以外は壊れようがないほど単純な仕掛けだが、箱にそれを貼るのは人の手だった。何百枚とやっているうち指先についた糊が乾いて、がさがさになる。指が塩の柱みたいになり、内側がむずがゆくなる。田辺さんの息子は、パソコンでシールにすればもつと清潔だし見栄えもいいと、家に帰ってくるたびに進言する<sup>(11)</sup>。そういうものをあつという間に印刷する装置があるらしい。親父のために言ってるんだと息子が迫るたびに、田辺さんの脳裏には青島さんの顔が浮かんだ。青ちゃんだって、設計図だけではなく完成品の三次元図までパソコンで楽々描けるこの時代に、自分で組み立て、動かしてみなければ、なにをつくったことにもならないと、手作業に終始してはいないか。田辺さんは、若いころから、そうやって青島さんとのあいだに一種<sup>(12)</sup>の共闘意識を抱きつづけてきた。あいつがあのままなら、おれもこれまでどおりでいい、とそのたびにさばさばした気持ちになるのだった。

電話をすると、青島さんは工場にいたが、今週は雪沼<sup>(13)</sup>のスキー場のリフトと、閉鎖された古いボウリング場の、ピンセッターの解体があつて、来週の日曜まで身体があかないらしい。得体の知れないものに手を出すところもむかしとまったく変わってないな、と田辺さんは笑った。

青島さんは、約束どおり翌週、日曜の午後に来て来た。まず糊づけ機のモーター速度と切り替えレバーを丁寧に調整し、それが片づく<sup>(14)</sup>とサイダン機のまえに立って、腕組みをしながら田辺さんの説明を聞いた。傾いてるって、おれはそうは感じないけどな、と言うか言わぬか、コンクリートの床に、傷があつて不良品となった段ボールを何枚か敷物がわりにして、青島さんは仰<sup>(15)</sup>向けになった。

青ちゃんを見てると、年をとった気がしない、と田辺さんは胸のうちでつぶやく。六十代なかばにさしかかっているのに、青ちゃ

んの身体のまわりの空気はむかしとなにひとつ変わらない。一方、おれの周囲からは、そういう単純さ、透明さが、この十年のあいだにどんどん消えていった。単純なこと、明快であることを、効率のよさととりちがえている人間が多すぎる。効率がいいからといって、物事が単純になるとはかぎらないのに、そんなことも理解できない人間が、いつのまにかのさばるようになってきた。雪沼はひとつの例外としても、道路沿いの景色は、五十キロ走った先の、異なる町の景色とほとんどおなじだ。駐車場がやたらひろくて、その端にプレハブみたいなスーパードパチンコ屋がならんでいる。地盤が崩れかかっているのは段丘の下部ではなく、それに支えられているかつての谷底のほうではないか。

雨あがりのつよい陽射しで、仕事場のなかはひどく蒸し暑かった。うっかりして煙草に手をのばしそうになった田辺さんは、黙々とペンを動かしている青島さんに、適当なところで休んで、冷たいものでも飲みに来いよと声をかけて事務所に入り、ハイトをたてつづけに数本吸った。それから冷蔵庫を開けてみたが、あいにく缶入りの緑茶を切らしていた。なかに入っていたのは、週末に来た顧客の手土産の、缶ビール六本だけだ。喉がひどく渴いていたので、田辺さんはぐいっと一本飲み干し、我慢できずにもう一本、妻の顔を想い浮かべながら飲み切った。顔がほてり、首筋の血管が脈打つ。田辺さんほうとうとしてはじめる。脛の裏側で、青島さんがまだ地面に寝転がっていた。青ちゃん、ちよつと休んだほうがいいぞ。そう言うとき青島さんは青い顔で立ちあがり、だめだ、情けない、おれも年を取ったよ、と思いがけない台詞を吐く。なんだ、らしくないことを言うなよ、それで、どうなんだ、やつぱり機械の故障か、と田辺さんがたずねると、青島さんは困惑した表情で首を振った。おれのミスだ、信じられない、右脚のボルトの締めが甘くて高さがわずかにずれてた、右も左もおなじように締めたはずなのに、腕の力が衰えたんだな、ほら見てくれ、右腕のほうが変わろう、触ってくれよ。目をむけると、青島さんの右腕はまっくろな細い針金になっていていまにも折れそうだった。ほら、なべちゃんもそうだろ、脚も手も、みんな細いじゃないか、こりやだめだぞ。驚いて田辺さんが自分の脚と手を見る。針金より細く頼りなげな手足に悲鳴をあげて目を覚ますと、大きなガラス越しに、狭い通路のむこうで寝転がっている青ちゃんの真っ白な髪が、どろんと白子を散らしたようにひろがっていた。

(堀江敏幸「河岸段丘」『雪沼とその周辺』による)

(注) 雪沼——この物語の舞台になっている架空の地名

問1 傍線番号(1)「個体差」とは何を表しているか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

1

- ① 機械がそれぞれもっている癖
- ② 機械に使われている部品の違い
- ③ 機械に必要な保守点検の回数
- ④ 機械が最も効率的に稼働する環境
- ⑤ 機械の修理と改造履歴

問2 傍線番号(2)「他人が描いた設計図は読めるのに、自分ではまったく描くことができない」とあるが、その理由として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

2

- ① 評判になるくらいにのろくて不器用なので、設計図のような精密なものを描くのは苦手だから
- ② 汚い字を書くので、他人が判別できる図面を描くことができないから
- ③ 頭の中の考えを、様子を見ながら現物のかたちにして考えていくから
- ④ 独学で機械の修理と保守点検を勉強したため、正しい描き方を学んでいないから
- ⑤ 普通とは違う工程で作業をするため、他者の予想と違うものしか描くことができないから

問3 傍線番号(3)・(4)・(10)・(11)・(13)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ

つ選びマークしなさい。

3  
7

(3) 茶化す

3

- ① 軽蔑する
- ② 激昂げきこうする
- ③ 冗談にする
- ④ 否定する
- ⑤ 提案する

(4) 煙に巻いた

4

- ① 励ました
- ② 謝らせた
- ③ 計画した
- ④ 誤解させた
- ⑤ うやむやにした

(10) 労を惜しまず

5

- ① 失敗しても諦めず
- ② 力を出し惜しみせず
- ③ ねぎらうこともせず
- ④ 危険もかえりみず
- ⑤ 手間暇をかけず

(11) 進言

6

- ① いましめを述べること
- ② 話を蒸し返すこと
- ③ 意見を申し述べること
- ④ 結論を急ぐこと
- ⑤ 言い争いをすること

(13) 身体があかない

7

- ① やる気にならない
- ② 動くことができない
- ③ 時間ができない
- ④ 集中できない
- ⑤ 病気が治らない

問4 傍線番号(5)・(7)・(8)・(9)・(14)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

8  
 ～  
 12

(5)

ブカツコウ  
 8

- ① ハッコウ食品を作る  
 ② 音楽をアイコウする  
 ③ コウザイ相半ばする  
 ④ コウテイしがたい話  
 ⑤ 雑誌をコウドクする

(7)

ビョウソウ  
 9

- ① 悪のソウクツとなる  
 ② 困難にソウグウする  
 ③ 家宅ソウサクをする  
 ④ ドウソウ会に出席する  
 ⑤ セツソウを守る

(8)

ユウズウ  
 10

- ① ユウゲンの境地  
 ② 銀行のユウシを受ける  
 ③ 支払いのユウヨ期間  
 ④ 保険のカンユウをする  
 ⑤ ユウユウ自適の暮らし

(9)

サンタン  
 11

- ① サンタンをつける  
 ② 石油をサンシュツする  
 ③ 金属がサンカする  
 ④ 祭にキョウサンする  
 ⑤ ラッカサンで降下する

(14)

サイダン  
 12

- ① サイガイに備える  
 ② 劇団をシュサイする  
 ③ サイマツの売り出し  
 ④ セキサイ量を制限する  
 ⑤ サイバンを傍聴する



問5 傍線番号(6)「たしかにそのとおりだ」とあるが、どういうことか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

13

- ① 部品を取り替えずに修理できるように、機械は単純な構造であるべきだということ
- ② 単純な構造で設計された機械は、油をさすだけで調子が良くなるということ
- ③ 機械は、構造が単純であればあるほど修理が楽で、部品も汚れないということ
- ④ 機械が故障した場合は、壊れた箇所のまわりをすべて取り替える方が効率的だということ
- ⑤ 機械の修理は、問題の箇所を特定し、他の部分を傷つけないように行うということ

問6 傍線番号(12)「一種の共闘意識」とあるが、どのような意識なのか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

14

- ① 便利な機械が豊富にある時代とはいえ、新品を買うより古い機械を大切にしたいという意識
- ② 効率のよさを追求する時代とはいえ、それぞれに合ったペースを大切にしたいという意識
- ③ パソコンで仕事が管理できる時代なので、休日や時間外でも仕事を進めようという意識
- ④ 効率が追求される時代にあつて、自らの手作業で現物と向き合うスタイルは変えないという意識
- ⑤ 年月が経てばみなひとしく年をとるけれども、いつまでも気持ちは若くいたいという意識

問7 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

15

- ① 青島は機械の修復跡をきれいに消すことはできないが、新品同様の状態に戻すことはできる
- ② 青島のつくった機械はブラックボックスみたいなもので、他人は操作することができない
- ③ 田辺は効率がいいことよりも、単純、明快であることを大切にして生きていたいと考えている
- ④ 田辺も青島と同じくらい機械の扱いには自信があるが、青島のことを名人として尊敬している
- ⑤ 青島は年を取って脚や手は細くなり、腕の力も衰えてしまって、ボルトの締めつけが甘くなっていた

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

われわれ現代人に著しく弱まっている人間の能力はなにかといえ、なによりも記憶力であろう。現在ひとは、なににごとにつけても自分で覚えていようとせず、システム手帳や電子機器に任せようとする。これらは〈記憶の外化〉の趨勢<sup>(1)</sup>の表われである。昔から人間は、自己の技術的な能力や器官を道具や機械として次々に外化してきた。その道具や機械が神経<sup>(2)</sup>ケイトウや予知能力に類するものまで持つようになって、情報機器による〈記憶の外化〉が本格的に行なわれるようになった。

しかし、いちばんの問題は、われわれ人間が記憶を単にさまざまな機器に委ねることではない。そうではなくて、機器に委ねられないような種類の記憶力までも、記憶の外化とともに衰弱させていることである。では、機器に委ねられないような種類の記憶力とはなにか。それは〈想起〉し〈再認〉する能力である。『物質と記憶』のなかでH・ベルクソンが〈純粹記憶〉と呼んだのは、人間の持つそのような想起・再認の能力のことであった。

コンピュータ時代において、この想起的記憶は人間にとつて特別な意味を持つている。そのことをよく表わしているのは、フィリップ・K・ディックの原作になるSF映画「ブレードランナー」の一場面である。破壊と乗っ取りを目的として地球にセ<sup>(3)</sup>ニュウした複製人間の正体をテストする場面である。知力にすぐれた複製人間は、いろいろな知能テストにパスしたものの、結局最後に、昔の思い出、幼いときの思い出を想起できるかどうか決め手になって、正体があらわれるのである。

<sup>(4)</sup>ベルクソンの記憶論に戻っていえば、彼は、こう言っている。記憶には二つの種類のものがある。一つは身体運動の反復によって得られる〈習慣的記憶〉であり、この場合には経験は表象されない。もう一つは、自発的な〈純粹記憶〉であり、この場合には、精神が過去を表象として想起する。このように習慣的記憶と純粹記憶とを分類した場合に、後者を機器に委ねることは不可能であろう。想起的な純粹記憶は、思い出されるのは個々の事物であっても、イメージの全体としての世界にかかわっているからである。

基本的にベルクソンのこの想起的記憶の考え方に<sup>(5)</sup>のつとりつつ、思い出の持つ意味をいつそう鮮やかに示しているものに、小

林秀雄の次のことばがある。《思ひ出が、僕等を一種の動物である事から救ふのだ。記憶するだけではいけないのだらう。思ひ出さなくてはいけないのだらう。多くの歴史家が、一種の動物に止まるのは、頭を記憶で一杯にしてゐるので、心を虚しくして思ひ出す事が出来ないからではあるまいか。／上手に思ひ出す事は非常に難しい。》（「無常といふ事」）

ここには、思ひ出が精神的な純粹記憶として、動物的・機械的な記憶と対比されて鋭くとらえられている。ベルクソンの純粹記憶もそうなのだが、これらの場合、想起的記憶だけが精神の記憶とされ、そこから身体的なものはまったく排除されている。が、想起的記憶はまったく身体から切り離せるものであろうか。いうまでもなく、人間は心身の高次の統合体であり、いまや人間において、精神とは、活動する身体のことだと見なされている。そして、記憶が担うイメージ的な表象は、つまりは、身体的なものを基盤とした感性的なものだからである。

記憶の働きは近代の知から排除されたが、それには、それなりの理由があった。それまでの歴史の拘束や重圧から逃れ、共同体から個人が(8) するためには、どうしても過去との繋がり<sup>つな</sup>を断ち切る必要があった。そのとき新しく要請されたのが、デカルト的な意味での「方法」であった。方法とは、記憶や習慣によらずにわれわれを真理に導くものでなければならなかった。「方法」をそのように位置づけるヒントを私が得たのは、フランシス・A・イエイツの『記憶術』（一九六六年）からである。

イエイツはデカルト的な意味での「方法」について立ち入って述べてはいないが、面白いのは、デカルト自身が「記憶力」の弱さをたいへん気にしていたことである。彼は《私はつねに、他の何人かと同じように、（……）豊かで、なんでもすぐに思い出せる記憶力を持ちたいものだと思つた》、と『方法序説』の初めのところで書いている。デカルトはそのため、「記憶術」に代わつて、確実な前提から出発し、論理的な連鎖によつて物事をその原因から演繹的にとらえていく「方法」を打ち立てたのである。<sup>(11)</sup> 《方法とは習慣の反対物である》とG・バシユールも『適用された合理論』（一九四八年）のなかで述べている。

(12) 「方法」は科学的思考や科学に基づくテクノロジーと結びつくのである。その意味で、近代とは、まさしく「方法の時代」であった。ところが、P・ヴァレリーのいう「方法的制覇」が進み、貫徹して、自然的・文化的環境を破壊したため、人びとは自己の存立基盤の喪失を痛切に感じるようになった。そのため、生存の基盤と密接に結びついた記憶の問題をもう一度

考え直さざるを得なくなったのである。そして記憶とは、過去の言語化であり、ことばによる過去の  
[13] である。ここか  
ら、古代ギリシア・ローマ以来の西洋の修辞学(レトリック)の伝統のなかで、なぜ「記憶術」が重要な意味を持つてきたのかがわかる。

この「記憶術」というのは、弁論家が記憶を強化し、長い演説を行なうための術(アート)のことであり、古典修辞学の本質的な一部をなしていた。そしてすでにアリストテレスは、想起的記憶についてはつきり目を向けていた。彼は言っている。何かを思い出すとするとき、たとえすぐには思い出せなくとも、ひとはいろいろなシゲキ(14)を自分に加えて、やがては探すものが現われるようにすることができるとはいえ、思い出すには、何か手がかりになるものが必要ならぬ。そこでひとは、しばしば、想起のために場所(15)を使うのである。

この記憶と場所の密接な関係については、記憶術の祖シモニデスに、興味深いエピソードがある。キケロが『弁論家について』のなかで伝えているものだ。すなわち、貴族スコパスが催した宴で、詩人シモニデスは主催者をたたえる叙情詩をロウエイ(16)した。その詩のなかにカストールとポルックス(ギリシア神話の双子の神)をたたえる一節が入っていた。スコパスは謝礼をけちって、この讃辞(さんじ)に見合う半額しか君には上げられない、残りの半額は詩の半分を捧げられた双子の神からもらうべきだとシモニデスに言った。

間もなくして、二人の若者がお会いしたいと言って門外で待っています、という伝言がシモニデスにあった。彼は外へ出たが、そこには誰もいなかった。すると、彼のいない間に宴会場の天井が落つこちて、スコパスも客の全部もお押しつぶされて死んだ。誰が誰だか判別できない状態になってしまった。ところがシモニデスは、彼らのいたテーブルの場所を思い出し、彼らすべてを(17)同定することができたのである。姿なきライホウ者たる双子の神は、倒壊の寸前にシモニデスを外へ呼び出して、自分たちへの讃辞の分の謝礼をみごとに支払ったのであった。

この経験を通して、シモニデスは、記憶力を訓練しようとする者に対して、まず場所を選んで、記憶したい物事の心的イメージを形づくること、次いで、場所のうちにイメージを蓄えて、場所の順序がものの順序を保ち、もののイメージがそのもの自体を示すようにせよ、と教えたのである。記憶術のみならず、記憶の本質をよく示している。(19)

(注) 修辞学——思想を効果的に伝達するための表現する方法を追求する学問

(中村雄二郎『術語集Ⅱ』による)

問1 傍線番号(1)・(5)・(6)・(10)・(17)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

16

20

(1) 趨勢

16

- ① 大多数の意見
- ② 強大な勢力
- ③ 大きく進む動向
- ④ 権力者の意向
- ⑤ 象徴する意味

(5) のっとりつつ

17

- ① 引用しながら
- ② 対抗しながら
- ③ 同意しながら
- ④ 規範としながら
- ⑤ 否定しながら

(6) 虚しくして

18

- ① 病んで
- ② 空にして
- ③ 無駄にして
- ④ 注意を欠いて
- ⑤ 充実させて

(10) 演繹

19

- ① 無駄を省いて効率的に処理すること
- ② 細かいところまで突き詰めること
- ③ ある理論や法則を他の物事へあてはめること
- ④ 客観的な事象を一つ一つ積み上げること
- ⑤ 今までのやり方にとらわれないこと

(17) 同定する

20

- ① 丁重に追悼する
- ② 場所を推測して助ける
- ③ 同じ状況を再現する
- ④ 元と同じ状態に戻す
- ⑤ 誰であるか特定する

問2 傍線番号(2)・(3)・(14)・(16)・(18)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

21  
～  
25

(2)

ケイトウ

- ① 彼は直情ケイコウだ  
 ② チカケイを掘り出す  
 ③ カケイ図を参照する  
 ④ 王位をケイシヨウする  
 ⑤ キユウケイをとる

(3)

センニユウ

- ① 犯人がセンブクする  
 ② 空中をセンカイする  
 ③ 食物センイを撰とる  
 ④ センモン家に質問する  
 ⑤ 生地をセンシヨクする

(14)

シゲキ

- ① 論文のシユシを理解する  
 ② メイシを交換する  
 ③ シシツの多い食品  
 ④ シホン主義国家となる  
 ⑤ 敗戦はヒッシだ

(16)

ロウエイ

- ① ホウエイ権を獲得する  
 ② 公衆エイセイに取り組む  
 ③ 友好関係をエイゾクさせる  
 ④ エイタンの声を上げる  
 ⑤ エイダンを下す

(18)

ライホウ

- ① 服のホウセイ業を営む  
 ② 病人をカイホウする  
 ③ ホウコウ剤を買う  
 ④ 国家がホウカイする  
 ⑤ 出身校をホウモンする



問3 傍線番号(4)「ベルクソンの記憶論」の説明として、適切でないものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

26

- ① 純粹記憶は、個々の経験をシンボル化している
- ② 純粹記憶とは、過去を表象として思い出すことである
- ③ 記憶には、身体と精神に関わるものの二種類がある
- ④ 習慣的記憶は、身体的運動の反復から得るものである
- ⑤ 習慣的記憶でも、過去の経験が想起される必要がある

問4 傍線番号(7)「想起的記憶だけが精神の記憶とされ、そこから身体的なものはまったく排除されている」とあるが、これに

対する筆者の考えとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

27

- ① 人間の記憶は、条件次第では身体的なものに依拠することも可能である
- ② 人間は精神と身体が一体となった存在であり、精神は活動する身体だといえる
- ③ 人間の記憶は、精神的な働きを基盤としながら、それを身体が補完している
- ④ 人間は個々の事物の記憶に基づいて、イメージ的な表象に発展させる
- ⑤ 人間の記憶は、身体より精神に担われているという方が正確であるといえる

問5 空欄番号

(8)

(12)

(13)

に入る語句として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ

一つずつ選びマークしなさい。

28

29

30

28 (8)

⑤	④	③	②	①
消滅	逃走	進化	独立	対立

29 (12)

⑤	④	③	②	①
にもかかわらず	だからこそ	たとえば	ところで	もしくは

30 (13)

⑤	④	③	②	①
合理化	一般化	常態化	相対化	意識化

問6

傍線番号(9)「〈方法〉」とあるが、その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

31

- ① 〈方法〉は、論理的・演繹的に物事をとらえる思考であり、歴史の拘束や重圧を断ち切るものとして要請された
- ② 〈方法〉は、科学的思考や科学に基づくテクノロジーと結びつくことで近代を相対化するのに役立った
- ③ 結果的に自然的・文化的環境破壊をもたらすことになった〈方法〉は、近代の知から排除されていた
- ④ デカルトが〈方法〉を確立したのは、なんでもすぐに思い出せる豊かな記憶力を持ちたいと願ったからである
- ⑤ 〈方法〉が打ち立てられたのは、思い出される個々の事象のかかわりが生み出すイメージを言語化するためである

問7 傍線番号(1)「方法とは習慣の反対物である」とあるが、これはどういうことか。その説明として、最も適切なものを、次

の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

32

- ① 方法と習慣がそれぞれに導く結論はいつも対立する
- ② 方法は習慣によらず真理を導くものである
- ③ 方法は習慣が生み出す真理への近道である
- ④ 習慣と方法は似て非なる理論である
- ⑤ 習慣と方法は互いに補いあう関係である

問8 傍線番号(15)「場所」の働きとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

33

- ① ふさわしい環境を想起する
- ② 過去の思い出を多く集める
- ③ 長い演説を聴く人々を集める
- ④ あることを思い出す糸口を与える
- ⑤ 脳の中で記憶を活性化させる

問9 傍線番号(19)「記憶術のみならず、記憶の本質をよく示している」とあるが、これはどういうことか。その内容として、最

も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

34

- ① 記憶においては、心的イメージの形成とそれを思い出すさいの手がかりが重要であるということ
- ② 記憶においては、心的イメージを実在する場所と関連づけておくことが重要であるということ
- ③ 記憶においては、集中できる場所で心的イメージを形成することが重要であるということ
- ④ 記憶においては、心的イメージを蓄えた場所を覚えておくことが重要であるということ
- ⑤ 記憶においては、記憶したい内容の心的イメージをいかに作るかが何より重要であるということ

問10 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

35

- ① 委ねられない種類の記憶を機器に任せていることが問題であって、記憶の外化自体は問題ではない
- ② ベルクソンが〈習慣的記憶〉とよんだのは、人間の持つ「想起・再認する能力」のことである
- ③ 近代において〈方法的制覇〉が進み、人々が存在基盤の喪失を感じたことで、〈記憶術〉が生まれた
- ④ 近代の知が真理に導く方法を要請したために、記憶の働きは排除されることとなった
- ⑤ 詩人シモニデスに詩を捧げられた双子の神は、シモニデスに記憶術を教えることで謝礼を払った

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(20点)

清明<sup>(注1)</sup>、「なにぞの人にておはするぞ」と問へば、「播磨国の者にて候ふ<sup>(3)</sup>。陰陽師<sup>(注2)</sup>を習はん心ざしにて候ふ。此の道に、ことすぐれておはします由を承りて、せうせう習ひ参らせんとて、参りたるなり」といへば、清明が思ふやう、「此の法師は、かしこき者にこそあるめれ。我を心みんとて来たるものなり。それに悪く見えては悪かるべし。この法師、すこしひきまさざらんと思ひて、供なる童<sup>(注3)</sup>は、式神<sup>(注4)</sup>をつかひて来たるなめり。もし式神ならば召し隠せ」と心の中に念じて、袖の内にて印を結びて、ひそかに咒<sup>(注5)</sup>を唱ふ。さて法師にいふやう、「とく帰り給ひね。後に良き日して、習はんと給はん事どもは、教へ奉らん」といへば、法師、「あらたふと」といひて、手をすりて額にあてて、立ち走りぬ。

今は去ぬらんと思ふに、法師とまりて、さるべき所々、車宿り<sup>(注4)</sup>などのぞきありきて、又前に寄り来ていふやう、「この供に候ひつる童の、二人ながら失ひて候ふ。それ給はりて帰らん」といへば、清明、「御房<sup>(注5)</sup>は、希有<sup>(注6)</sup>の事いふ御房かな。清明は、なにの故に、人の供<sup>(注6)</sup>ならんものをば、取らんするぞ」といへば、法師のいふやう、「さらに、あが君<sup>(注7)</sup>、おほきなることわり候ふ。さりながら、ただ許し給はらん」とわびければ、「よしよし、御房の、人の心みんとて、式神つかひて来るが、うらやましきを、事におぼえつるが、異人をこそ、さやうには心み給はめ、清明をば、いかでさる事し給ふべき」といひて、物読むやうにして、しばかりありければ、外の方より童一人ながら走り入りて、法師の前<sup>(注8)</sup>に出で来ければ、その折、法師の申すやう、「実に心み申しつる也。つかふ事はやすく候ふ。人のつかひたるを隠すことは、更<sup>(注8)</sup>にかなふべからず候ふ。今よりは、ひとへに御弟子となりて候はん」といひて、ふところより名簿<sup>(注6)</sup>ひきいでて、取らせけり。

『宇治拾遺物語』による

(注1) 清明——安倍清明のこと

(注2) 式神——陰陽師のつかう神

(注3) 咒——呪文

(注4) 車宿り——牛車ぎつしゃを収納しておく建物

(注5) 御房——僧の敬称

(注6) 名簿——官位、姓名を記した名札

問1 傍線番号(1)・(4)とはどういうことを表しているのか。その説明として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

36

37

(1) ことにすぐれておはします由

36

- ① 晴明が、陰陽道にとりわけすぐれているということ
  - ② 法師が、今以上に陰陽道に精通したいと思っているということ
  - ③ 晴明が、陰陽道をきわめたいと格別強く願っているということ
  - ④ 播磨国では、晴明の陰陽道の評判がとりわけ高いということ
  - ⑤ 播磨国では、陰陽道がとりわけ発達しているということ
- (4) それ給はりて帰らん

37

- ① 式神を消す術を教えてもらって帰るということ
- ② 自分の式神を返してもらって帰るということ
- ③ 車宿りにとめている牛車をもらって帰るということ
- ④ 式神をつかう術を教えてもらって帰るということ
- ⑤ 人の式神をつかう術を教えてもらって帰るということ

問2 傍線番号(2)・(6)の文法的説明として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

い。  
38

39

(2) 来たるなめり

38

- ① カ行変格活用動詞の連用形＋完了の助動詞＋断定の助動詞＋推量の助動詞
- ② カ行変格活用動詞の連用形＋完了の助動詞＋強意の助動詞＋推量の助動詞
- ③ 名詞＋完了の助動詞＋断定の助動詞＋推量の助動詞
- ④ 名詞＋完了の助動詞＋強意の助動詞＋推量の助動詞
- ⑤ カ行四段活用動詞の連用形＋完了の助動詞＋断定の助動詞＋推量の助動詞

(6) 供ならん

39

- ① 名詞＋断定の助動詞＋推量の助動詞
- ② 名詞＋断定の助動詞＋伝聞の助動詞
- ③ 名詞＋完了の助動詞＋推量の助動詞
- ④ ラ行変格活用動詞の未然形＋推量の助動詞
- ⑤ ラ行変格活用動詞の未然形＋断定の助動詞＋推量の助動詞

問3 傍線番号(3)・(8)の口語訳として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

40

41

(3) 去ぬらん

40

- ① なぜ去るのだろう
- ② 去るのがよいだろう
- ③ 去っているだろう
- ④ 去るのだろう
- ⑤ 去るとかい

(8) 更にかなふべからず候ふ

41

- ① 特別に難しいことです
- ② 全く耐えられないことです
- ③ 全く不可能なことです
- ④ その上さらに難しいことです
- ⑤ 全く成就できないことです



問4 傍線番号(5)「希有の事いふ」の具体的な内容として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

42

- ① 法師が、自分の式神が晴明によって隠されてしまったと主張していること
- ② 法師が、晴明の式神よりも自分の式神のほうが強いと主張していること
- ③ 法師が、自分の式神が晴明のいいなりになってしまったと主張していること
- ④ 晴明が、法師は式神をつけて自分を監視していたと主張していること
- ⑤ 法師が、自分の式神が車宿りに閉じ込められてしまったと主張していること

問5 傍線番号(7)「あが君」とは、誰のことか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

43

- ① 晴明
- ② 法師
- ③ 童
- ④ 式神
- ⑤ 御坊

問6 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

44

- ① 晴明は法師を見て、自分に悪意をもつものであると見抜いた
- ② 法師は、式神二人を袖のなかに隠していた
- ③ 清明は、法師の式神を播磨の国に送り返した
- ④ 法師は晴明に、自分を試すべきではないと言った
- ⑤ 法師は晴明の弟子になりたいと、名札を出して志願した

問7 本文の出典である『宇治拾遺物語』と同じジャンルのものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

45

- ① 狭衣物語
- ② 十六夜日記
- ③ 沙石集
- ④ 平家物語
- ⑤ 太平記